

平成29・30年度 第9回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 平成31年2月4日（月）午後1時30分から3時14分

開催場所 高崎市中央公民館 第3学習室

議題 提言（案）について

公開・非公開区分 公開

出席委員（14人）

樋口克己委員 ・ 小屋美香委員 ・ 綾部園子委員 ・ 飯野茂委員
山崎紫生委員 ・ 森周子委員 ・ 吉村晴子委員 ・ 関正委員
山口堅二委員 ・ 中司恵理委員 ・ 丸茂ひろみ委員 ・ 新利恵子委員
高山和一郎委員 ・ 堤香代子委員

欠席委員（6人）

相模透委員 ・ 関崇裕委員 ・ 瀬間宏一郎委員 ・ 長壁真樹委員
小見勝栄委員 ・ 松田裕子委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

小峰好恵中央公民館長・土谷真由美社会教育課長・齋藤崇夫教育担当係長
富丘高行次長・錦部光樹次長・塚越康弘次長・原田輝章次長・横尾律男次長
大野雅美主査・菅野典子行政嘱託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

平成29・30年度 第9回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

提言(案)について

会長： お手元の提言(案)について、自由にご発言いただきたいと思います。「はじめに」から始まり、本文、「おわりに」となっています。資料は、聞き取り調査についての調査票、地域資源カードの記入例、六郷地区と南八幡地区の地域資源カードの例が各6枚、そしてマップの作成例です。

1ページ、「はじめに」です。次、2ページ、「Ⅰ.地域資源調査の概要」です。これは既に審議会で提示させていただいております。(6)の調査実施期間をご覧ください。当初は11月30日まででしたが、その後も追加調査の必要がありましたので、「その他必要に応じて追加調査を行う」という部分を追加させていただきました。その次、「Ⅱ.地域資源調査の手順」です。宝(地域資源)の情報収集、地域資源カードの作成、マップの作成とまとめました。そして、5ページ、「Ⅲ.地域資源カードの記入例」です。自然、生活環境、歴史文化、産業、名人、その他の分野ごとに1例ずつ載せてあります。「Ⅳ.地域資源マップの作成例」をご覧ください。ここでは、南八幡地区について、「祭りや行事でつながる」というテーマで、作成したマップを載せました。6ページ、「Ⅴ.地域資源の活用による地域づくりへの提案」では、7つの提案を示しました。最後は、「おわりに」です。

では、この提言内容について、追加、修正等があればご指摘いただきたいと思います。

学識経験者B：すごくよくできていると思います。Ⅴの提案ですが、ここが一番重要な部分だと思いますので、Ⅴにせず、別にした方がいいと思います。調査の概要や手順と同列では、内容が薄まってしまうと思います。

会長： IからⅣまでとはレベルが違うので、例えば、IからⅣを1章にして、Ⅴを2章にして「提案」とする。いかがでしょうか。

ユネスコ協会選出委員：私も賛成です。2ページから6ページの7行目までを1章、提案を2章にする。

会長： 「はじめに」、IからⅣまでが1章、Ⅴにしないで2章とし、7つの提案を示す。それでよろしいでしょうか。では、「おわりに」で追加や訂正はありますか。

ユネスコ協会選出委員：10ページの4段落、今回の資源調査は2地区にとどまったが、他

の地区にも働きかけています。前回の審議会で、2地区だけでは勿体ないという意見が出ました。それがここに活かされている。この結びの文面はよいと思います。

会長： 少し弱い表現かとも思いましたが、それぞれの状況に合わせ、これを参考にしてもらえればありがたいということにとどめました。

資料をご覧ください。資料1「地域資源聞き取り調査について」は、既にお示ししたものです。資料2「地域資源カード」ですが、記載する内容はここに示しました。資料3は、六郷地区の地域資源カードを各分野1つずつ取り上げました。聞き取り調査のみのもの、参考資料から追記したものもあります。聞き取り調査では、複数の意見もありましたので、重複して記載しているものもあります。また、コメント欄には別のことが記載されているものもあります。例えば、「三国街道の道しるべ」では、協力者により話の内容が異なります。「六郷歴史資料室」は、六郷小学校の空き教室に地域の資料を集め、地域の方や子ども達に公開しています。地域の方との学習や交流、空き教室の活用例にもなると思います。

六郷地区について、追加事項や感想をお話ください。

学識経験者A： 聞き取り調査に行き、この地域に親しみがわき、もっと知りたいと思うようになりました。カードの記載についてですが、例えば、グルメ四季菜館筑縄店や六郷歴史資料室については、営業時間や休日を追加していただいた方がよいと思いました。

会長： グルメ四季菜館筑縄店は営業時間や休日、六郷歴史資料室は見学には予約が必要なのかというような情報も追加するとよいですね。

箕郷地区選出委員： 各項目はよろしいのではないかと思います。聞き取り調査には、区長さんやその経験者の方に来ていただきましたが、六郷地区は、大きな団地がいくつもできて、転入された方が大変多く、昔のことを知らない方も多かったです。転入された方は年配になられた頃だと思いますが、その年代になると地域に愛着を持ちます。そういう意味でも今回の調査は大変よかったですと思います。

会長： 話を聞いておかないともう聞けないという状況であることがわかりました。今回調査をした2つの地区の方には、結果を報告させていただくことになるかと思いますが、その時にはそのようなことも指摘させていただければと思います。

群馬地区選出委員： そこに住んでいらっしゃる方々が、自分の地域のことを語られていることにすごく魅力を感じました。地域の魅力というものは、人から伝わっていく

ものだと改めて感じました。特に印象に残っているのは、国鉄村の話で、いろいろな人がいらっしまったということがすごく印象に残っています。

会長： 10ページ、「おわりに」の第4段落は、自分たちの地域について、語り合う機会という表現にしました。調査後、地域のことについて意見交換をする機会をもつことで、今後の方向性が見えるのではないかと思います。他の地域でもそういう機会をもってもらえば、うれしいと思います。

倉淵地区選出委員：六郷地区のことをよくご存知の方はいますが、今後、誰かに引き継いでいく必要があり、それは大事なことだと思います。地域での座談会等で、後世の人に伝えていくことが必要だと思います。

会長： それは提言の中にも入れさせていただきました。

22ページからは南八幡地区についてです。この地区は水害が多い。川のいい面と恐ろしい面の話が出てきました。「烏川三（名）石」は、水かさの増減により舟を出す目安となる大きな岩で、烏川には3つあるそうです。「根小屋いも」は、根小屋産の里いもです。「だいに」という料理を奨励しており、南八幡の4地区の適地適作により、根小屋は里いもだということです。「石碑の路」について、高崎自然歩道には万葉歌碑があり、地域の内外の方に親しまれている場所だそうです。「養蚕農家」は、貴重な存在でご主人と2人でやっています。育てた繭を山名町在住の繭糸業者が選別し、碓氷製糸に持って行き、それから富岡製糸場に持って行く。繭糸業者は免許制だそうです。今回の調査でわかった重要なことです。「みなみやはたの歩み」は、当時の公民館長さんの提案で、住民で会を作り、館長さんや主事さんにも協力してもらい、10集からなる冊子を発刊しました。現在は休刊になっていますが、この調査をきっかけに、また発刊できればいいと思いました。南八幡地区の調査に参加された方の感想等を聞かせてください。

家庭教育関係者A：1回2時間という短い時間でしたが、たくさんの情報をいただき、南八幡地区に大変興味を持ちました。調査当日に「みなみやはたの歩み」という冊子があることを知り、後ほど、図書館で目を通させていただきました。郷土史を作るのは大変な作業ですが、たとえ2時間でも地域の人が集まり話をして、このようなカードを作ることにより、郷土史とは異なるが、同様のものになるのではないかと思います。南八幡公民館長は、南八幡の案内人というブログをリアルタイムに発信されています。「みなみやはたの歩み」で過去のこともわかり、現在のことも公民館が主になり、いろいろなところに発信をしている。そういう力がある地域だと感じました。今のことを書きとめておくことは後世にとって、貴重な資料になります。地域の方が現状を話してまとめ、記録として残していくことは

すごく大事なことだと思いました。地域の人達が語り合う場を設けることで、再発見もあると思いますが、今回のように他の地域の人とお互いの地域について話し合うと、自分の住む地域の魅力や課題、また、参考にできることが見つかると思います。このカードの中心の部分は、協力者の話の内容をそのままの言葉で記載していますが、それもととても貴重だと思います。一方、備考欄は宝をこれからどのように守れるのか、続けていけるのか、どのように活用していけるのか、課題や問題等、いろいろな意見を追記していけるような形にすると活用の幅が広がると思います。私の聞き取り調査のグループの地域協力者は、全員男性でした。女性の視点や地域に住む子ども達の意見も含まれているとさらに良いのではないかと思います。

家庭教育関係者B：同じ地域の中でも里や川の地域等で、作物も違い、作ってはいけない作物もあるということを知り、地域の特性を表していると思いました。今回の調査では、過去の行事に関するものが多く、今はなくなってしまったものについては、今後、記録として残しておくことはすごく難しいと思います。継承することができなかった行事はたくさんあると思いますが、後生に伝えられるような形が何かあったらいいなと思いました。

新町地区選出委員：カードの周知の方法を考えたのですが、その地域内の子どもにも見てもらい、子どもが社会勉強等で、自発的にインタビューし、声を聞く。そうすると世代がつながっていくのではないかと思います。

吉井地区選出委員：「みなみやはたの歩み」を拝見して、とても驚きました。地域の皆さんで作成し、次の世代に文書として残すことは、素晴らしいことだと思います。住民も大切な伝統を守っていく自負を持ち、伝えていかななくてはいけないと思いました。私の地域では、どんどん焼きが大きな運動施設ができるため、中止になってしまいました。私の実家の地域の獅子舞についてですが、女の子は関われない等、いろいろな取り決めがありました。一時は中止になっていましたが、女の子も獅子舞ができるようにし、他所に引っ越した人や実家がある人も参加できるようにしたところ、踊り手が出てくれるようになりました。地域の人には伝えたいものを自分達の宝物だと思うことがとても重要であり、行政等にも支援をしていただきたいと思っています。

会長： ありがとうございます。

資料5をご覧ください。資源としては、歴史文化が一番多かったので、「祭りや行事でつながる」というテーマでマップの例を作成しました。お祭りにはいろいろなものがあります。地図の右上にある山名八幡宮は、子どもが生まれたら地域のほ

とんどの人が行くという神社です。鹿島神宮は古い神社で、お祭りの時だけ、宮司さんに来てもらっています。担い手が少なく、危機感をもっていた。そんな中、古文書が発見され、続けることが重要だと書かれていたので、2017年から開催日を変えることにより、広く協力が得られるようになりました。地図の上の方の地域は、小学校が中心になっていて、運動会もお祭りも小学校で行われています。小中学校では、うどん教室のようなイベントをカリキュラムの中に入れて、地域の人と交流しています。なんばち縁起市は、3年前から始まり、地元の農家の2、3代目の人が中心になり、毎月第2土曜日、山名八幡宮の境内で行っています。8月の第2土曜日は、鹿島様の例祭と同日になるため、場所を移動して鹿島神宮の参道で開催することで、相乗効果を生み出しています。若宮八幡宮は、小山家の氏神様で、自宅から離れた山の中腹にあります。小山家が5軒くらいまとまって、毎年行っているそうです。山名八幡宮の宮司さんが祝詞をあげてくださるという話でした。また、どんどん焼きは、鳥居を組んで行う珍しいものだそうです。それから個人宅で屋敷神様を祀っているのが、左ページの石の宮で、右が真っ赤で、左は普通の石の色のもので、地域の方にお話を聞く機会はなかったのですが、大体、北西の角にあります。なんばち縁起市や鹿島の七日火は、子ども達がいろいろな絵を描いてくれたり、俳句を投稿してくれたりします。上から2番目の写真は、ボランティアが子どもの絵や俳句を灯籠に貼り付けているところです。テーマの数だけマップをつくるのが可能です。

では、提案です。6ページ、1番目、公民館等を会場にして地域資源調査の成果報告会を開催する。展示や発表を聞いた住民から追加の情報が寄せられ、新しい宝の発見へとつながることが期待できます。

2番目、発掘・再発見された宝を分かりやすくすることや保存・伝承・発展させるための活動を行う。根小屋町の第一町内会には、お祭りの時に引き回す舞台が解体されたまま保存されているそうです。区長さんはそれを再生したいと願っています。補助金の申請等には、評価が必要だと思われるので、専門家に価値について調査してもらうことも必要ではないかと追記しました。

3番目、同じ地域に住む人々が地域の宝の価値を認識し、価値認識を共有するための活動を展開する。「フェノロジーカレンダー」は、いつ何があるかが記されているものです。ところで、宝に関する説明板や掲示板の設置については、区長さんを通じ、市に申請することができるそうです。

4番目、地域の宝を活用し、地域から学びを得ることができる学習環境をつくる。小中学校との連携は重要だということです。教育のカリキュラムの中に入れてもらうことが一番よい。地域のことを学ぶ一環として、例えば、宝発見ツアー、地域の人から話を聞く聞き書き講座等を行うことも提案しました。

5番目、地域の外に向かって宝の魅力を情報発信していく活動を行い、地域の宝の価値を共有・共感する事業へ発展させる。観光の視点が入るということです。

南八幡のブログのようなものは、すごく有効だと思います。

6番目、宝の活用によって新たな宝を創り出し、地域に経済的な成果をもたらす仕掛けを創出する。地方創生の流れの中の提案です。地域固有のブランドを開発できるようにしたらいいのではないかと提案です。

最後です。町ごとに地域資源としての宝を探す講座やワークショップを開催する。自分達の町は自分達で、運営するという流れになるということを期待することです。例えば、宝を目立たせるための説明板がほしいという意見がある。区長さんを中心に、自分達でできることや行政に依頼することを決める話し合いをする。挙がってきたお宝の活かし方を考える。そして、継続した活動が要だと書きました。

1から7は参考になると思っています。今はやっていない行事があります。やめてからどのくらい経っているのか。それを地域の人はどう考えるか。話し合いの場をもち、課題解決に向けた取り組みにつなげていくことを期待しています。

10ページ、「おわりに」です。今回の資源調査は、六郷地区と南八幡地区の2地区で実施されるにとどまったが、他の地区でも自分たちの地域について語り合う機会をもっていただけることを期待したい。そして、それぞれの地域で他の地域にはない、魅力的な地域が創られることを願っていると締めくくっています。

よろしいでしょうか。

家庭教育関係者A：気付いた点を申し上げます。2ページ、地域資源調査の概要の(6)調査実施期間についてです。今回のヒアリングは1回2時間でしたので、聞き取り調査は1回約2時間と記載しておく、2時間でこれだけの情報が得られたのであれば、やってみたいという地区も増えるのではないかと思います。

会長： (6)に入れるということですね。

家庭教育関係者A：あるいは(4)調査方法の聞き取り調査に記載する。

会長： では、(4)に入れた方がいいですか。

家庭教育関係者A：どちらかに。また、(3)調査人数は、調査対象者数とした方がいいかもしれません。あるいは、調査に当たった人数を3ページのグループのところに入れるか。

会長： では、調査対象人数にしましょう。

家庭教育関係者A：そうですね。6ページの上から5行目、「ここでは南八幡地区の4つ町」

となっていますが、「4町」でよいのではないのでしょうか。

会長： 「つ」は削除し、「4町」に修正します。

家庭教育関係者A：10ページ、資料の1ですが、2ページでは、調査票「地域資源聞き取り調査について」と書かれていますので、ここでも同様の表記にした方がよいのではないのでしょうか。前に出てきた調査票とつながると思います。

会長： 10ページでも調査票を前に入れるということですね。わかりました。

家庭教育関係者B：6ページの提案のところから、宝探しとか、宝という言葉が頻出していますが、読んでみると目立ちません。前の記述では、宝に「 」が付いている箇所がありましたが、あまり多いと「 」を付けたらうるさいと思いますので、ゴシック等、目立つような字体にさせていただいた方がよいと思いました。

会長： ゴシックの方がよいのでしょうか。

家庭教育関係者B：見やすいようにしていただければよいと思います。

事務局： 数が非常に多いので、逆にうるさくなることもあるかもしれませんので、調整をして、会長に確認していただきます。

学識経験者B：全体としてよくまとまっていると思います。これを実施する時に中心になる人を見出すことが大事です。9ページの7、「ワークショップを開催する」と書かれています。そこに興味を示す人、キーパーソンを見つけるということを入れた方がよいと思います。

公募委員A：このよい提言をどこでフィードバックするか。この宝をどう周知できるのか。このようなことをおっしゃっているのだと思います。

会長： 成果報告会を開く。そこに来てくれる方がメインになると思います。ワークショップの参加者を募集するのは、公民館かもしれませんが、集まった人達でチームをつくり、運営もするという事です。

学識経験者B：チームづくりをする際に、興味を示す人が中心になることが必要です。

公募委員A：これだけの資料を作ったのだから、地元の公民館は地域の人に周知し、何か

するわけでしょう。区長さんが中心になってやるとは思いますが。

会長： そうではなく、別の組織になります。そこに来た人が話し合っ、グループをつくるようになることを期待しています。キーパーソンを見つけるということまで書いた方がいいですね。

学識経験者B：関心を示す人はいます。そういう人が中心になると、集まって来る人はたくさんいます。

ユネスコ協会選出委員：このようなものはどうでしょうか。講座やワークショップでは、宝をどのように使い、どのような地域にしたいかというビジョンを皆で話し合い、ワークショップづくりを推進するチームづくりをする。

家庭教育関係者B：宝発見推進チームですね。

学識経験者B：興味を示す人を見出す。それは宝探しだけでなく、学校へ働きかける人、何か事業をする人、いろいろな人がいると思うのですが。

会長： 地域づくりですか。

新町地区選出委員：地域づくり活動協議会が既にあります。宝という言葉があった方が区別化できると思います。

学識経験者B：これは公民館運営審議会が動いたからできたわけでしょう。外部から聞き取る人が行ったからできたわけです。今度は、地域の人だけでやるので、チームを作ることがまず大事です。

新町地区選出委員：先程からお話に出てきていますが、キーパーソンがいなくなかなか人は集まりません。

会長： 講座やワークショップでは、宝をどのように使い、どのような地域にしたいかというビジョンを皆で話し合い、地域の宝発見推進チーム（仮称）をつくるということでしょう。

新町地区選出委員：まず、推進チームをつくることからということですよ。

会長： ワークショップを開き、さらにやりたい人を探し、1人ではできないからチー

ムでやる。既存の組織とは違うものをつくらないとできない。公民館には、手を挙げてくれそうな人を集めてもらう。

家庭教育関係者A：このような表現ではいかがでしょうか。皆で話し合い、理解・関心を示す人物（キーパーソン）を中心に地域の宝を発見するためのチームづくりから始めていく。

会長： それでは、「皆で話し合い、理解・関心を示す人物（キーパーソン）を中心に地域の宝を発見するためのチームづくりから始めていく。」このように修正させていただきます。実施に向けて、明確なステップがわかるような内容に変更できました。ありがとうございます。では、提言案についての審議は、これで終わります。ご協力ありがとうございました。

事務局： 会長からお話がありましたが、提言案をご覧いただき、修正やご意見等がありましたら、2月12日火曜日までに、事務局へご連絡ください。修正等があれば、会長に確認いただき、修正させていただきます。

報告・連絡事項

事務局 ・ 第7回審議会の会議録及び議事録について

閉会

事務局： これをもちまして、本日の審議会を閉会いたします。なお、第10回の審議会は3月5日火曜日、午後1時半からの開催となります。それでは、皆様、お疲れ様でした。